

第5回城端線・氷見線再構築会議 議事録

日 時：令和7年11月29日（土） 11：00～11：50

場 所：富山県民会館8階バンケットホール

出席者：出席者名簿のとおり

1 開会

（事務局）

定刻となりましたので、ただいまから第5回城端線・氷見線再構築会議を開催いたします。開会に先立ちまして、新田会長からご挨拶を申し上げます。

2 挨拶

（新田会長）

おはようございます。なかなかスケジュールが合わず土曜日の開催となり恐縮をしております。皆さんにご参加いただきまして、ありがとうございます。今回の会議から、新たに高岡市長の出町譲さんがご参加です。後ほど挨拶いただければと思います。

前回の会議では城端線・氷見線の新しい車両であります新型ハイブリッド気動車のデザインについてお示しをし、皆さんでお決めいただきました。

今回は、城端線・氷見線の再構築実施計画について、あいの風とやま鉄道に事業主体を変えていくということになります。そのために必要な準備に向けた対応というのが必要になります。再構築実施計画の変更認定申請、また、再構築実施計画の地上設備工事の実施に伴うダイヤへの影響などについて協議をできればと考えております。

城端線・氷見線が言うまでもなく将来にわたり沿線の皆様に、県民の皆様に愛される持続可能な鉄道になるよう、引き続き皆で知恵を絞って、もしハードルがあれば乗り越えていきたいとそう思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

本日の出席者のご紹介につきましては、お手元の出席者名簿の配布を持って代えさせていただきます。

なお、冒頭の知事の挨拶にもありましたが、高岡市の出町市長には7月の就任後、今回初めてのご出席となりますので、一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

（出町委員）

今、ご紹介いただいた高岡市長の出町譲でございます。城端線・氷見線の再構築事業に関しては、私も議員時代から関心をもっておりました。そして素晴らしい決断で動いている、それは関係者皆様の大英断だと思っております。そしてこの大英断こそ、地域の、住民の暮らしやすさに繋がると思っております。

ぜひとも新参者でまだまだ分からないこともいっぱいありますので、ご指導ご鞭撻よろし

くお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは以後の議事の進行は会長の新田会長にお願いします。

3 議事

(1) 再構築実施計画の変更認定申請について

(新田会長)

次第に従いまして議事に入ります。

最初ですが、まず、第一種鉄道事業の許可申請を兼ねることになります再構築実施計画の変更認定申請について協議をしたいと考えます。これまでは再構築実施計画の認定以降、ICカードの導入、新型車両の導入など利便性向上の取組みを順に進めてきましたが、今後は事業主体の変更に向けての対応が必要となってきますので、協議を行う必要があろうということです。事務局からまず説明をお願いします。

※事務局から資料1「再構築実施計画の変更認定申請について」に関して説明

(新田会長)

資料1の説明を申しあげました。今ありましたように、「事業構造変更プログラム」というのは法定の用語ではありません。他と区別するために、便宜上、このような呼び方をして、今説明したような内容を詰めていきたいと考えております。

それではこの件につきまして、委員からご意見あるいはご質問がありましたら、お願いいたします。

(出町委員)

変更認定申請の内容については概ね理解しましたが、現在、ICカードや新型車両の導入、その他いろいろ再構築事業を進めていくため、県にご尽力いただいておりますが、今後、事業構造の変更に伴う変更認定申請など更に検討・協議が必要になるため、組織体制の強化が必要になると思うのですが、その辺はどうなのでしょう。

(事務局)

事務局から回答させていただきます。体制ということですが、今後検討する項目を決定していくためには沿線市、あいの風とやま鉄道、JR 西日本の皆さんと協力していくことが大切となってきますので、今後、皆様とますますの連携をお願いしたいと思います。

(夏野委員)

確認ですけど、変更認定申請の主体は誰なのですか。あいの風がなるのですか。それともJRがなるのか。再構築会議は主体に入りますけど。誰になるのかというのが一つ。そ

れから主な内容の1から5まで書いてあるということは必要な要素、第一種鉄道事業の許可申請の必要要件だと思うのですが、これはどの程度まで詳しく書くのですかね。何が言いたいかというと、資産譲渡について申請時点で明らかにしておかなくてはいけないのでしょうか。それから社員出向の条件などもしっかり書かないといけないとなると、並行在来線のときのイメージから言うと結構大変だと思うのですが、そこら辺はどんな感じで進めていくことになるのでしょうか。資産譲渡の件はJRさんもいるのであまり答えにくいと思いますが、どういう風になるのでしょうか。

（事務局）

どなたが申請するかということは、今回、鉄道事業法の特例としまして、鉄道事業に係る添付資料を付して再構築実施計画の認定を受けることをもって第一種鉄道事業の許可を得たものとなるものでございます。再構築実施計画は作成主体が再構築会議ということになっていますので、申請主体は再構築会議のメンバーでございます。

手続的なことにつきましては、よろしければ運輸局さんの方から少しご発言いただければと思います。

（秋山オブザーバー）

申請の内容や、書類にどの程度書き込むのかということについては、事業主体を途中で変更するものは全国でも初めてのケースなので、これから鉄道局と内容をよく調整しながら進めていこうと思っており、今の段階ではまだ答えを持ち合わせていません。鉄道局と調整しながら、皆さんの手続に遅れや手戻りがないように進めたいと思います。

（夏野委員）

事業主体の変更は並行在来線のときも同じでは。JR から並行在会社にいったのも同じことでは。

（秋山オブザーバー）

同じような形になると思います。鉄道事業法と再構築で若干違ってくるものもあると思うので、しっかり確認しながら進めたいと思います。

（新田会長）

あいの風の伍嶋社長はいかがでしょう。

（伍嶋委員）

あいの風とやま鉄道におきましても、今後、城端線・氷見線を含めた中期経営計画を策定することを予定しております。従いまして、この再構築実施計画、今いろいろな内容は議論されましたけれども、実施計画と今回作成のプログラム、こういったものを反映した内容として中期経営計画の策定を目指したいと思います。このため変更認定申請とこの中期経営計

画についてはしっかりとリンクさせて作成したいと思っていますので、今後も、この再構築会議で詳細な事業計画、またはいろんな課題等について協議をしっかりと今後も行わせていただきたいと思います。

(新田会長)

それでは再構築実施計画の変更認定申請については、資料1のとおりの方針、スケジュールを含めて進めてよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

ありがとうございます。

(2) 再構築実施計画の地上設備工事の実施に伴うダイヤへの影響について

(新田会長)

それでは次に再構築実施計画の工事の実施に伴うダイヤへの影響について、JR 西日本金沢支社長の石原委員からご説明をお願いいたします。

※JR 西日本から資料2「再構築実施計画の地上設備工事の実施に伴うダイヤへの影響について」に関して説明

(新田会長)

ダイヤへの影響について、委員からご意見があればお願いします。

(菊地委員)

ご説明ありがとうございました。今ほどの説明にもありましたが、夜間の最終列車の繰り上げについて、現在も氷見線・城端線にあいの風とやま鉄道から乗り換えてご利用される方が大変多いと思っておりますので、ここの乗継ぎについてはスムーズになるようにご配慮を再度お願いしたいと思います。

来年度は氷見線の方で夜間の工事があるとのことご説明でありました。安全に気を付けていただくのはもちろんですが、騒音などに関して、住民の方からご意見があれば、ご対応を是非お願いしたいと思っております。

一つ質問なのですが、氷見線・城端線は学生の利用が多いと思います。昼間運休というご説明もありましたけれど、学生への周知というのはどのように考えておられますでしょうか。

(石原委員)

まず学生さまへのご周知、ご案内ですけれども、学生の皆様のご利用が落ち着く9時から15時頃を想定していますので、駅等でのポスターの周知は間違いなく行うのですけれども、加えて、教育委員会の皆様や各学校様を通して周知をさせていただくことを考えておりますので、是非皆様方のご協力をお願いしたいと考えております。

それから再度お願いというお話もありましたけれども、城端線との接続も考慮して相互の

ダイヤを調整させていただきたいと思っておりますし、騒音の話もありましたけれども、工事周知のポスター掲示の対応も既にしておりますし、既に雨晴駅でホームの嵩上げ工事が開始しておりますけれども、目に見える形できれいになっており、結構励ましのお言葉もいただいていると聞いております。引き続き丁寧に対応してまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

（新田会長）

高校への周知については私どもも連携してまいりたいと思っておりますので、情報共有していきたいと思います。

その他いかがでしょうか。

（夏野委員）

石原委員のお話にもありましたが、最終列車を繰り上げるとおっしゃったんですが、最終列車、例えば城端線の23時05分を止めるのかそれとも繰り上げというのは、23時05分を1時間繰り上げて、その前に21時51分があるんですけど、その後に1時間ほど繰り上げる列車を出すのか、この辺はどうなんですか。

（石原委員）

どちらのパターンもあろうかと思っております。今検討しているところなんですけれども、城端線と氷見線で違うかもしれませんし、完全に切って終電を無くしてその分ダイヤをさわる、もしくは今お話ししたようなダイヤをただ単に上げていく、そんなパターンと両方あると思っておりますので、それを含めて検討を今しているところでございます。

（夏野委員）

最終列車を止めてしまったら、次の日の始発のダイヤははまるんですかね。

（石原委員）

終電をさわるだけだろうということではなく、ダイヤは結果的に全体をさわります。なおかつ、来年は氷見線ですけれども、氷見線と城端線は一体運用してますので、結果、氷見線をさわっても城端線も一定、ダイヤも変わってくることになろうかと思います。その辺り含めてご案内をちゃんとさせていただきたいと思っております。

（新田会長）

それはやはり1か月前が目途と言うことですか。その辺はいかがですか。

（夏野委員）

もう少し早ければ。

(石原委員)

基本的にはダイヤ改正のタイミングでさせていただくことになっております。もう少し早いかと思います。ただ、昼間の間合いですね、それはどれくらいになるかということは1か月前よりはできるだけ早くご案内したいと思っております。

(夏野委員)

それと併せて、できるだけ最小限にするというお話はありがたい話ですけど、実際に今うちの市役所の横でもレールやまくら木が置いてありまして、もういよいよ始まるんだなと期待をしているんですけど、例えばですね、全線を一度に工事するわけではないと思いますので、例えば城端線の場合、砺波駅で折返しが出来ますから南の時は砺波駅までは元のダイヤでやろう、氷見線の場合は例えば伏木駅までは元のダイヤでやろうといったことも考えて、できるだけ影響を少なくなるようなことも考えていただけるとありがたいと思いますので、よろしくお願いします。

(石原委員)

おっしゃるとおりだと思っておりますので、その辺も含めて検討してまいりたいと思います。ただ、コロコロとダイヤを変えるわけにはいけませんので、工事の進捗を見ながら、基本的には固めてやっていこうというつもりですので、工事の進捗を見ながらそこも含めて検討してまいりたいと思います。

(出町委員)

伏木地区では、毎年、けんか山というイベントが開かれております。これまでも JR 西日本さんでは、臨時列車を運行していただいております。本当に感謝をしております。けんか山というのは、夜に盛り上がるのピークを迎えますが、伏木にとって非常に大切ですし、高岡全体にとってもすごく重要なイベントです。そこでちょっと具体的な話で恐縮ですが、来年5月16日のけんか山においても、今年同様にご配慮していただければと考えているところです。

(石原委員)

臨時列車は当然検討させていただきます。ただ、仮に繰り上げるか、ダイヤをさわったりしてここから工事に入るというところに関しては、年間通しての検討となります。どの程度まで遅く臨時列車が必要なのでしょうか。

(出町委員)

そこは、可能な範囲内でよろしいです。

(石原委員)

可能な範囲であればそれはもちろん。今まで通り。

(新田会長)

あいの風の視点から何かありますか。

(伍嶋委員)

今回の工事時間の確保ということで、ダイヤを柔軟に対応するという点については本当に理解をしたいと思います。私どももその変更後の時間に合わせて、これまでもいろいろダイヤの接続については JR さんと協調してさせていただいていますので、今後も、弾力的なダイヤを組まれた際に、当社線としてもそれに上手く接続できるように円滑になるように調整をさせていただければと思います。よろしくお願いします。

(石原委員)

是非よろしくお願いします。常日頃から調整させていただいております。どうぞよろしくお願いします。

(新田会長)

秋山部長、この点で何かコメントございますか。

(秋山オブザーバー)

ダイヤの変更が生じるということなので、再構築の手続とは別にダイヤの変更の手続をしっかりとっていただければと思います。

先ほど伍嶋社長からもありましたが、両線の接続はしっかり協議してダイヤを編成していただければと思います。

(新田会長)

ありがとうございます。

今回の再構築事業は、全車両を新型車両に置き換えるということで進めております。また運行本数も約 1.5 倍とする計画になっております。これに伴い鉄道施設に関しては大幅な改良が必要となります。そのため現行のダイヤを全て維持したまま工事を行うことは困難であるというご説明は理解をできるものだと思います。皆さん同じだと思います。

しかし、一定期間ですが、利用者、県民の皆様の利便性が低下することは確かなのでありまして、利用者目線で影響が最小限になるよう JR 西日本さんにはお願いしたいと思います。具体的には、お話も出ましたが、利用者への周知の方法、いろんなご意見もあったと思いますが、JR 西日本さんもこの再構築会議のメンバーであり、ある意味では運命共同体だと思っておりますので、利用者の気持ちも十分承知しておられるのでしっかりと対応をお願いします。

また、仮にですが、利用者目線から見て、いかがかなと思われる内容が散見された場合には、この会議の議題として取り上げることとしたいと思います。

それでは再構築事業の工事の進捗に伴うダイヤへの影響について、利用者への対応にできる限りご配慮いただいたうえで、夜間工事、あるいは日中の集中工事について実施をいただくということによろしいでしょうか。

(一同異議なし)

(3) 交通系 IC カードへの対応について

(新田会長)

3 番目、交通系 IC カードへの対応について、石原委員からご報告をお願いします。

※JR 西日本から資料 3「交通系 IC カードへの対応について」に関して報告

(新田会長)

ありがとうございました。委員から意見があればお願いします。

(田中委員)

大変これは期待しておりまして、市民の皆さんもいつかいつかとお待ちいただいています。二、三点聞きたいのですけれども、一つは例えば ICOCA を使った場合に周辺の商店の皆さんも期待をしております、どういうふうに盛り上げていくかというのを含めると、当然高校生の定期券の購入とかいろんな時期もきますので、早め早めに周知をしていただくということを、ぜひお願いしたい。それと、例えば商店の方にどういうものが入ると我々も交通系 IC カードで買い物ができるようになるのかという周知も何かあれば、市と一緒にですね、そういったことも含めていければなと思っていますのでよろしくお願いします。

それと南砺市内のみならず無人駅が多いものですから、無人駅の簡易改札機をどこに設置されるのか。無人駅でなおかつ雪が 1 m 以上降りますので、朝行ってみたら除雪の関係とかで屋根がどこにあるかということも含めて心配をしているというところですね。それとお年寄りの方などが改札機でピッとやったにも関わらず、どういうふうに（改札を）抜けていくかによっては次の駅で降りられないとか、不備があった場合にどうすればいいのか等を心配しておられる方が多いと思いますので、そのあたりどう対応していくかということを事前に周知できれば非常にありがたいなと思います。トラブルが起きたときの対応についても何か手があるのかどうか、そんなことを心配しています。

(新田会長)

石原委員をお願いします。

(石原委員)

まずご案内といいますか、気運醸成ですね。当然 JR としても車内吊りのポスターとかというものもやると。まずは早めというのが市長からのお話がありましたので、年内には、

年度のダイヤ改正のプレスをいたします。そのダイヤ改正の中では、特別にそれ専用の広報をしたいと考えていますので、その中でしっかりとご案内をしたいと思っています。それに加えて車内吊りポスターであるとか、適当なポスターですね、様々な方向で周知を行っていきたいと思っています。また是非ですね、各市様におかれましても、広報誌でありますとかタイアップしていただいて、広報にご協力いただければ非常にありがたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

それから、無人駅のお話です。屋外に設置する場合は屋外型のカバーというものももう既に何か所かしております。これはあいの風本線の方も既に導入してしまして、北陸地方での導入実績は結構ありますので、降雪等での不具合は今のところ報告されていませんので、問題はないかなと考えております。

それからトラブルというか、上手にお使いができなかった結果、次使えないみたいな話も、やっぱり最初はあろうかと思えます。できる限りのご案内はするつもりですが、どうしても対応しなければならないというときには、氷見駅、砺波駅、新幹線の新高岡駅、あいの風の高岡駅での取扱いとなります。そのあたりも含めてしっかりとご案内をしていきたいと考えております。

（新田会長）

ありがとうございます。我々自治体でも広報などで周知を一緒にやっていくのが大切なところですから、ひな型のようなものを JR さんにできれば作成いただいて、それを基に多少のアレンジをして我々に使わせていただくことはできますでしょうか。

（石原委員）

承知いたしました。混乱を招いてもいけませんので、私達の方から基本ベースを作って展開させていただければと思います。

（新田委員）

よろしくお願いします。ありがとうございます。
その他委員の方からございますでしょうか。

（出町委員）

この IC カードについて我々も大変期待しています。2点確認させていただきたいのですが、定期券の機能もこの1枚の IC カードで集約することが可能なのか、そうだとすれば本当に複数カードを持つ必要がなくなると便利になると思っています。それともう1点は、モバイル ICOCA が利用可能なのかということをお聞きしたいなと思っています。若い人たちはそういうのを使っていっちゃって、利用促進につながるのかなと思っています。2点確認させてください。

（新田会長）

だいぶ深掘りの質問ですが、石原委員コメントをお願いします。

(石原委員)

出町委員がおっしゃるのは、万葉線とかの場合ですかね？（はい）

城端線・氷見線であるとか、あいの風とやま鉄道はいわゆる鉄道型、それから万葉線がいわゆるバス型なのでちょっとシステムが違うんですが、双方1つずつであれば同一カードとすることは可能ですので、城端線・氷見線と万葉線の両方の定期、これを1枚にするということは可能です。

それからもう1つお話があったのは、モバイルICOCAですね、これはご利用が可能であります。ただ、これは普通利用の分であって、モバイル定期は今対応していないということで考えております。

(新田会長)

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

(夏野委員)

定期はどこで買えることになりますか。いわゆる普通の紙定期はもちろん今もありますけれども、このICカードに乗せる手続というのはどこでもは多分できないと思うんですが、例えば城端線・氷見線はどの駅でできるのか、それから例えば簡易委託駅では多分だめだと思うのですが、それと同じと考えていいのでしょうか。

(石原委員)

今言われたのはモバイルICOCAですか。

(夏野委員)

いえ、モバイルICOCAじゃなくてカードの方です。モバイルは基本的にダメなんですよ。ね。

(石原委員)

おっしゃるとおりで、主要駅だけになります。氷見駅、砺波駅、新高岡駅、高岡駅です。

(新田会長)

その他いかがでしょうか。あいの風の視点から何かありますか。

(伍島委員)

当社としてはICカードは非常に便利になると期待をしております、学生さんとか通勤の方で今まで使った方については非常に使いやすいということになると思うのですが、今後、例えば高齢の方とか初めて使う方については、不慣れでやはり処理の方法であるとか、今議

論のありました定期を仮に入れるとすればどこで買えばいいのか、あるいはチャージはどこの駅でできるのか、やはりこういったところはかなり戸惑われる方も多いのではないかと考えております。こういった共通の IC カードで乗車していただくのは非常にお客様にとっても便利ですので、これから、JR さんもそうですが、私どももしっかりと周知できる範囲内で、駅等のポスターをはじめとして、周知に努めていきたいと思っております。結果として、お客様が本当に便利だと思っていただけるように、様々な取扱いも周知を行ってまいりたいと思っております。

(石原委員)

ぜひご協力をよろしくお願いいたします。城端線・氷見線が使えるようになって、続けてのあいの風の路線が使えるように、そこも一定範囲がありますので、そのところも含めてあいの風様と一緒にご案内をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(新田会長)

ありがとうございます。

秋山部長、何かご助言があればお願いします。

(秋山オブザーバー)

3 月中旬に使用開始ということなので、しっかりと工事を進めていただき、予定通りに使えるようになればよろしいかと思います。先ほど石原委員もおっしゃったように、各市でもしっかり PR をしていただいて、便利だということをよく皆さんに分かってもらえるようになればいいと思います。

(新田会長)

ありがとうございます。それではいよいよ移管前の利便性向上策の第 1 弾、IC カードへの対応が始まるということ、大変に明るいニュースだと思います。ただ、まだ IC カードを使ったことがない県民の皆様もおられるかと思います。この周知の方、皆さんと協力をして、徹底して、そしてスムーズに利用者の皆さんが IC カードのライフに入れるようにサポートしていきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

(4) 再構築に係る沿線市間の費用負担について

(新田会長)

4 番目、再構築に係る沿線市間の費用負担について、これは出町委員からご報告をお願いいたします。

※出町委員から資料 4 「再構築に係る沿線市間の費用負担について」に関して報告

(新田会長)

出町委員ありがとうございます。ご意見あるいは補足はどなたからございますでしょうか。
(一同無し)

(新田会長)

ご報告ありがとうございました。

(5) 新型車両デザインの PR について

(新田会長)

それでは5番目、新型車両デザインの PR について、事務局からお願いいたします。

※事務局から資料5「(5) 新型車両デザインの PR について」に関して報告

(新田会長)

この件ご質問等ございますか。

(一同無し)

(6) 新型車両デザインの PR について

(新田会長)

それではその他全体を通して、何かご意見などございますでしょうか。

(一同無し)

(新田会長)

参考資料1はどうでしょうか。

(事務局)

参考資料1につきましては、再構築会議のスケジュールということで、これまでの経緯を書いてございます。第1回から第3回までは昨年度ということで、第4回については5月16日でございます。また第5回の方は今日ということでございまして、年間3回程度ということでございます。次回開催についてはまた時期が近づいてきましたら皆様と開催時期等をご相談したいと思っております。

4 閉会

(新田会長)

それでは最後に私から一言申しあげたいと思います。

これまで利便性向上の取組みを優先して進めてまいりました。次のポイントは再構築実施計画の変更認定申請についてということになります。本日はこれについて皆さんと協議を進めました。施設整備が本格化するとともに、事業主体の変更という全国の再構築事業でもあまり例のない取組みにチャレンジすることから、来年度に向けて再構築会議の事務を行う体

制を検討しますとともに、変更認定申請は大変に重要なことになりますので、委員の皆さんにもしっかりと提携して取り組んでいただきたいとお願いをいたします。

また再構築事業に係る工事の実施に伴うダイヤへの影響ですが、移管前にお約束どおりしっかりと施設整備を進めていただく必要があるため、レールやまくら木の交換などのためにこれまで例のない大規模な工事となることから、ダイヤにも影響が出るということは不可避ということでした。再構築実施計画においても、持続性のための対策が重要であるとしておりまして、乗客の皆さんには、移管までの間ご不便をおかけする分、JR 西日本さんにはしっかりと整備を行っていただければとお願いをいたします。

それでは本日の議事は終了させていただきます。皆さんには会議の進行にご協力いただきありがとうございました。

（事務局）

それでは以上をもちまして本日の会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。